

を賣り麦カスワラビの根芽を喰つて生命をツツギ新潟県では青田が一反歩ワツリ五六円で小作人の年から離れてゆき、長野県では五十二枚八百人の教員員に給料の支拂が出来ず差押競賣は全国の小作農民を猛烈に襲つてゐる。かかる農村の窮乏は自作のために中小地主の土地引上となり、自作農民は土地を手離して小作人に落ち、土地を捨てる小作人は中小地主の土地取上ととて農村をオワレるか若くは日雇労働者へと転落してゐる。今や、小作農民は單に経済斗争ばかりでなく政治斗争へと動きかけてゐる。

農林省発表による昭和九年前半期(一月から六月まで)の小作争議は、総件数二千五百四十九件で昭和八年の同期と比べると三百八十七件の増加となつてゐる。その内訳は

| | |
|-------|----------|
| 土地引上 | 一千七百九十八件 |
| 小作米減免 | 三百三十一件 |
| 風水害 | 百八十五件 |
| 滞納 | 二百二十四件 |

土地引上を中心とする争議は、総件数の六割九分を占めてゐる。小作争議が年々増大し、土地引上を中心とした争議のフエであることは、農村の窮乏化を知ると、充分である。更らに信用組合の負債整理反対、米穀検査反対、借金税金の取立猶予、政府米の無料押下等々の要求斗争は、東北、北陸、東北地方と於て最も激烈に戦はれてゐる。

特に本年は早稲による減収が傳へられ、更に九月中旬の粟暴風に被害をうけ、小作農民は、大凶作キキンの死の淵に打ちのめされることになり、小作米減免斗争はモトヨリ土地引上を中心とした争

議が激化し、政治斗争は全国的に勇躍に根強く戦はれることになりてあらう。



従業員二十一人の賃銀値下反対斗争に対し従業員の結束をブチコマすために、資本家の手先となつて、何れのは、在御軍人、青年訓練、青年団等である。こゝに反対の組織が強められ、ゆくと同時に、一方小作調停法のデマタイ化、小作法の制定、米穀統制法、農材の工業化等、小作農民のキマン懐柔策に努め、また出版法治安維持法の改正によつて言論出版、集会結社の限する取締を取重にして、労働者農民の斗争を圧殺し、
水戸の農民の斗争を圧殺し、

水 資本家地主の忠告を無視しての物を賣へた、フイツヨ運動は五二五事件をキツカケに、農材の中間層を喰ひこんできた、差込御堂、自治農民協会等と勢力が振出す、全国農林本部派の顧問兼、丁士であつた若田賢一は、皇國農民同盟を大派の小作農民を中心と組織し、國粹主義運動に支つたが、争議には、實業兵隊に逆きかかつて仲裁を頼むが如く、直に小作農民の生活利益を守るといふに斗争するのでなく、農民の戦闘的になつたのを抑へつて、地主御奉公の役目をもち、皇國、道会、山梨、福岡県下の農民(日本世展民組合同盟)の間、組織をこつてゐるか、これ等は皆、地主の御用団体です。皆、か、取重では、在御軍人を中心とするものが、フイツヨの中農派の政治運動と結ぶべき産業組合実行組合への働きかけからなれりとしてゐる。